



カイツブリ
徐々に本来の営巣環境へ
 井の頭池では2014年のかいぼり以降、カイツブリの営巣数が増加している。2021年は7つがいが増え、43羽のヒナが孵った。ここ数年間、池の環境変化にともない、カイツブリの繁殖状況も変わってきている。2021年のカイツブリの繁殖結果を報告する。

かいぼりで増加したカイツブリ

カイツブリは平野部の池沼に生息し、水に潜って小型の魚などを捕食する水鳥だ。井の頭池ではオコチバスなどの外来魚が増加したことによってカイツブリの食物となる在来の小魚等が減少し、2012年にはカイツブリの繁殖が確認されなくなった。2014年のかいぼり以降は、在来の小魚等の増加にともなってカイツブリの個体数が回復。2018年以降は7つがいが増え、繁殖する状況が保たれている。

営巣環境も変わってきた

カイツブリは、ヨシなどの抽水植物の茂みや、水面まで伸びた沈水植物（茎や葉が水中にある水草）の上に浮き巣を造る。かいぼり前の井の頭池にはこうした植生がなかったため、カイツブリは水面に倒れ込んでいる傾斜木の枝先に巣を造っていた。

こうした枝先タイプの巣は、強風で枝が揺れた際に巣が漂流したり、大雨で水位が上昇して巣が壊れたりするという短所があった。2021年には、傾斜木が抱卵の途中で大きく傾いたり、強風で巣が漂流したことによって繁殖が失敗した例が少なくとも3件確認されている。

一方で、近年はカイツブリ本来の習性である水生植物を利用した巣が見られるようになってきた。かいぼりの際に池底の泥を岸辺に寄せ、抽水植物が生育しやすい浅場を整備したところヒメガマなどが茂り、そこにカイツブリが営巣するようになった。さらに、水の透明度がよくなったことで沈水植物のツツイトモの生育範囲が広がる、その上に営巣するつがいも現れた。

しかしカイツブリが営巣できる抽水植物の茂みは限られているので、現在も枝先タイプの巣が多く見られる。カイツブリが本来の環境で営巣できるようにするためには、池の環境を整えていくことが大切だ。



傾斜木に造った枝先タイプの巣



ヒメガマに造った抽水植物タイプの巣



抽水植物の巣で休むヒナ

表. カイツブリの営巣環境タイプごとの営巣数 (2016年～2021年)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
水面に垂れた枝	10	14	3	12	9	10
抽水植物の茂み		1	3	8	5	8
開放水面 (沈水植物)				1	6	1
栈橋・杭					2	
合計	10個	15個	6個	21個	22個	19個

Topics

2021年アメリカザリガニ防除結果



ワナ回収の様子

アメリカザリガニは水生植物や水生昆虫を捕食して生物多様性に被害を及ぼすので、井の頭池では2014年から防除に取り組んでいます。2021年も、井の頭かいぼり隊が池全体に171基のワナを仕掛けて4月から11月まで捕獲作業を行いました。

今シーズンの捕獲作業では、ワナ数を増やしたり、捕獲効率の高いワナへの転換を進め、前年の5396匹よりも多い7367匹を捕獲しました。しかし、ワナ1個あたりの捕獲数を比較すると前年とほぼ同じで、生息密度はおおむね横ばいであると推測できます(図)。2014年から2021年のワナ1個あたりの捕獲数の推移を見ると、一定の傾向は見られない状況です。防除活動によってアメリカザリガニの増殖を抑制していると考えられますが、池の状態変化などの環境要因も関係している可能性があります。来シーズンもワナを増強するなどして引き続き防除に取り組んでいきます。

現在、国会では外来生物法によってアメリカザリガニの野外放逐や販売を規制する検討が行われています。水辺の生物多様性を保全するために、飼っているザリガニは最期まで大事に飼育し、別の場所に放さないようお願いいたします。

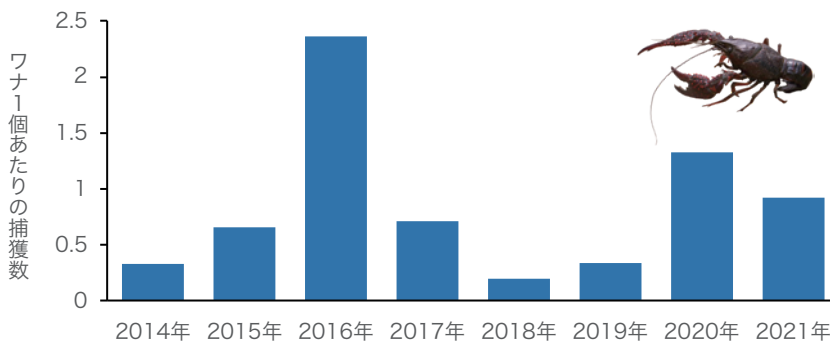


図. アメリカザリガニのカゴワナ1個あたりの捕獲数の推移 (お茶の水池)

いけいけ! かいぼり隊

～みんなで協力して泥水対策!の巻～

井の頭かいぼり隊と一般参加者が一緒に保全作業をするイベント「チョコッとかいぼり隊」を2月19日に開催した。かいぼりによって美しくなった池に泥水が流入してしまうのを防ぐため、浸透地に溜まった泥の除去と、しがら柵づくりを流した。

しがら柵は剪定した枝等を編み込んで作る簡易な柵で、土や落ち葉の流出を食い止める効果がある。今回は、踏圧によって植生がなくなり、表土が流亡してしまつた斜面地にしがら柵を作った。杭を打ち込み、材料の枝をていねいに編み込んでいく。単純な作業だが、参加者は夢中になって取り組んでいた。

でき上がった柵の間に、浸透地で掘つた堆積土を充填した。こうして斜面に表土を戻し、植物の生育環境を回復させる。植生が回復すれば、泥水の発生も軽減されるだろう。

泥水の流入対策は、この場所だけでは終わらない。今後も来園者と協力し、井の頭池の環境を保っていききたい。



泥水の発生軽減のため、しがら柵と土の補充で植物の生育環境を回復

今号のイチオシ! 自然情報



浅場に群生するカワチシャ

実生木を伐って日当たりがよくなった浅場に、絶滅危惧種カワチシャが広がりました。初夏にはほんのりとした青味のある可憐な花をつけます。